第7章 対象事業に係る環境影響評価の 項目並びに調査・予測・評価の 手法及び結果

第7章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査・ 予測・評価の手法及び結果

7-1 環境影響評価の項目

「千葉県環境影響評価条例に基づく対象事業等に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針並びに環境の保全のための措置に関する指針を定める規則」(平成11年6月、千葉県)(以下、「技術指針」という)に基づく「廃棄物焼却等施設の新設又は増設」に係る活動要素は、表7-1.1に示すとおりである。

工事の実施 土地又は工作物の存在及び供用 活動要素の区分 振動の 木の伐 一礎工事 沼 作 設 設 土又は盛土 設 犬の発生 文は 又は 又は 物の 煙 ス 物の発生 物の撤去又は廃棄 \mathcal{O} 設 文は 存 河川 海底 自 発生は 採取 撤去又は廃棄 機 置 粉じ 械 $\hat{\mathcal{O}}$ 改変 改変 渾 んの 周 搬 発生 対象事業の区分 廃棄物焼却等施設 \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc X \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \times の新設又は増設

表 7-1.1 廃棄物焼却等施設の新設又は増設に係る活動要素

は、技術指針別表第一に示される各事業が一般的な内容によって実施された場合に生じる活動要素である。

出典:「千葉県環境影響評価条例に基づく対象事業等に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針並びに環境の保全のための措置に関する指針を定める規則」 (平成11年6月、千葉県) 別表第一

7-1-1 活動要素の選定

表 7-1.1 を基に、本事業による事業特性(「第 2 章 対象事業の名称、目的及び内容」参照)と地域特性(「第 3 章 対象事業実施区域及びその周囲の概況」参照)を勘案して活動要素を表 7-1.2 に示すとおり選定した。また、活動要素の選定理由を同表に併せて示す。

注 ○は活動要素として選定したことを、×は活動要素として選定しなかったことを表す。

表 7-1.2 本事業による活動要素の選定及びその理由

段階	活動要素の区分	選定結果	選定する理由または選定しない理由
17/19	旧数女示い巨力		江戸川左岸の高規格堤防整備に伴い、土砂の切盛を行うこと
	切土又は盛土	\circ	から、活動要素として選定する。
			対象事業実施区域内に現存する築山、テニスコート、ゲート
	工作物の撤去又は廃棄		対象事業美地区域内に現任する梁山、ノーベュード、ノード ボール場及び付帯施設等を撤去することから、活動要素とし
工	工作物の銀云又は廃棄	0	
事			て選定する。 工事に伴い資材や機械の運搬を行うため、活動要素として選
の	資材又は機械の運搬	\circ	. ,,
実	/广西 子 幸		に で で で で で で で で で で で で で で で で で で で
施	仮設工事	0	仮設工事を行うため、活動要素として選定する。
	基礎工事	\circ	廃棄物焼却施設(煙突を含む)の設置にあたり基礎工事を行
			うため、活動要素として選定する。
	施設の設置工事	\circ	廃棄物焼却施設(煙突を含む)の設置工事を行うため、活動
			要素として選定する。
	施設の存在等	0	廃棄物焼却施設が存在するため、活動要素として選定する。
	ばい煙又は粉じんの発生	0	廃棄物の焼却によりばい煙が発生するため、活動要素として
	13、 是人間 07000 光土)	選定する。
土			廃棄物運搬車両の台数や走行ルートは現状と基本的に変わら
地	排ガス (自動車等)	×	ないことから周辺環境に及ぼす影響の程度は変わらないた
又は			め、活動要素として選定しない。
工			廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は排水処理施設での処理
作	排水	\circ	後、生活排水は浄化槽での処理後、公共用水域へ放流する計
物			画である。そのため、活動要素として選定する。
の	騒音若しくは超低周波音又は		誘引送風機などの騒音及び振動発生機器の設置により騒音・
存		\circ	超低周波音・振動の発生が考えられるため、活動要素として
在及	振動の発生		選定する。
び	平 点 8.74		廃棄物焼却施設の稼働に伴い悪臭が発生することが考えられ
供	悪臭の発生	0	るため、活動要素として選定する。
用	本本 此 の 30 儿	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴い焼却灰等の廃棄物が発生するた
	廃棄物の発生	0	め、活動要素として選定する。
			新たな廃棄物焼却施設に係る工作物については撤去又は廃棄の計画
	工作物の撤去又は廃棄	×	がないことから、活動要素として選定しない。
			" " " - C " - C " II JA A C C C C C C C C

注 〇は活動要素として選定したことを、×は活動要素として選定しなかったことを表す。

7-1-2 環境影響評価項目の選定

本事業に係る環境影響評価項目は、参考項目を基に表 7-1.3 (1) (2) に示すとおり選定した。なお、環境影響評価項目として選定した理由、もしくは参考項目に対して項目の削除または追加を行う理由は、表 7-1.4 (1) \sim (8) に示すとおりである。

表 7-1.3 (1) 環境影響評価項目の選定結果

		表 /-1.3(Ⅰ	,	垛坍	、彩音	一百十四		の迭	正 結身	<u> </u>				
		活動要素の区分			工事	の実施	<u> </u>	1	土地又は工作物の存在及び供用					
	対象	事業の区分	切土又は盛土	工作物の撤去又は廃棄	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排水	は振動の発生騒音若しくは超低周波音又	悪臭の発生	廃棄物の発生
		 硫黄酸化物								0				
		窒素酸化物	×	×	0	×	×	×		0				
		浮遊粒子状物質	×	×	0	×	×	×		0				
	大気	粉じん	0	0	×	0	0	0		×				
	双 質	有害物質 (塩化水素)								0				
	貝	光化学オキシダント								×				
		ダイオキシン類								0				
		その他の物質(水銀)								0				
		生物化学的 酸素要求量							×		0			
		化学的酸素 要求量							×		0			
	水質	水素イオン濃度	0			0	0		×		0			
		浮遊物質量	0			0	0		×		0			
環境の自然		全燐							×		0			
的構成要素		全窒素							×		0			
の良好な状 態の保持を		ノルマルヘキサン 抽出物質							×		0			
旨として調		溶存酸素量							×		0			
査・予測・評		大腸菌群数							×		0			
価されるべ		全亜鉛							×		0			
き環境要素		有害物質等 (健康項目)							×		0			
		ダイオキシン類							×		0			
		その他の項目							×		0			
		水底の底質							. ,		0			
		水文環境	X				X	×	×		×			
		騒音及び超低周波音	0	0	0	0	0	0				0		
					0	0	0	0			1	0		
	振動 悪臭 地形及び地質 地盤			0									0	
						×	×		×		1	\vdash		
							×							
			×				0							
									×					
分		風害、光害及び日照阻害		<u> </u>		<u> </u>		<u> </u>						

注 は、県の指針に基づく参考項目として示されているもの。それを基に、次のとおり表示した。

〇:参考項目であり、選定した項目

表 7-1.3(2) 環境影響評価項目の選定結果

<u> </u>		12 / 1.0 (2		-> (->	347 D	H 1 1			ᄹᄳᄸ	•				
	汗干	要素の区分			工事の	の実施	<u>î</u>		土地又は工作物の存在及び供用					
対	切土又は盛土	工作物の撤去又は廃棄	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設置工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排水	は振動の発生騒音若しくは超低周波音又	悪臭の発生	廃棄物の発生		
生物の多様性の		植物	0			0	0	0	0					
確保及び自然環 境の体系的保全		動物	0			0	0	0	0					
を旨として調	陸水生物		0			0	0	0	×		0			
査・予測・評価 されるべき環境		生態系				0	0	0	0		0			
要素	海洋生物					×	×	×	×		×			
人と自然との豊 かな触れ合いの 確保を旨として		景観							0					
調査・予測・評価されるべき環境要素	人と自然との触れ合いの 活動の場				×				0					
alm take the little		廃棄物		0		0	0	0						0
環境への負荷の 量の程度により		残土	0	0		0	0							
予測及び評価されるべき環境要	泪安林田	二酸化炭素								0				
れるべき環境要 素	温室効果 ガス等	一酸化二窒素								0				
		メタン								0				

注 は、県の指針に基づく参考項目として示されているもの。それを基に、次のとおり表示した。

○:参考項目であり、選定した項目

表 7-1.4(1) 環境影響評価項目の選定理由(工事の実施)

ス /⁻Ⅰ.4(Ⅰ)								
璓	環境要	素	活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若 しくは参考項目に対して削除または追加を 行う理由			
		窒素酸化物	切土又は盛土、工作物 の撤去又は廃棄、仮設 工事、基礎工事、施設 の設置工事	×	排ガス対策型の建設機械を使用するため、 建設機械稼働に伴い排出される窒素酸化物 の影響は軽微と考えられることから、項目 として選定しない。			
			資材又は機械の運搬	0	工事用資材又は機械の運搬車両による影響 が考えられることから、項目として選定す る。			
	大気	浮遊粒子状	切土又は盛土、工作物 の撤去又は廃棄、仮設 工事、基礎工事、施設 の設置工事	×	排ガス対策型の建設機械を使用するため、 建設機械稼働に伴い排出される浮遊粒子状 物質の影響は軽微と考えられることから、 項目として選定しない。			
	質	物質	資材又は機械の運搬	0	工事用資材又は機械の運搬車両による影響 が考えられることから、項目として選定す る。			
環境の自然の良好な状の		粉じん	切土又は盛土、工作物 の撤去又は廃棄、仮設 工事、基礎工事、施設 の設置工事	0	切土又は盛土などの工事の実施による粉じ んの影響が考えられることから、項目とし て選定する。			
			資材又は機械の運搬	×	工事用資材又は機械の運搬車両は舗装道路 を走行するため粉じんの巻き上げはほとん どないことから、項目として選定しない。			
態の保持を 旨として調 査・予測・評	水	水素イオン 濃度	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事	0	コンクリート打設等の工事の実施によるア ルカリ排水の影響が考えられるため、項目 として選定する。			
価されるべき環境要素	質	浮遊物質量	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事	0	切土又は盛土などの工事の実施による降雨 時の濁水の流出が考えられることから項目 として選定する。			
		水文環境	切土又は盛土、基礎工 事、施設の設置工事	×	本事業の工事では、大規模な地形の改変は 行わず、流域の変更や帯水層の分断のよう に広域的な水文環境に影響を与える行為は ないことから、項目として選定しない。			
		騒音及び 超低周波音	切土又は盛土、工作物 の撤去又は廃棄、仮設 工事、基礎工事、施設 の設置工事	0	建設機械の稼働による騒音の影響が考えら れることから、項目として選定する。			
	,	但区内仅日	資材又は機械の運搬	0	工事用資材又は機械の運搬車両による騒音 の影響が考えられることから、項目として 選定する。			
		振動	切土又は盛土、工作物 の撤去又は廃棄、仮設 工事、基礎工事、施設 の設置工事	0	建設機械の稼働による振動の影響が考えら れることから、項目として選定する。			
	T	であり、選定した	資材又は機械の運搬	0	工事用資材又は機械の運搬車両による振動 の影響が考えられることから、項目として 選定する。			

表 7-1.4(2) 環境影響評価項目の選定理由(工事の実施)

	12 / 1.4	(4) 垛况彩音计测块口		T
環	境要素	活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若 しくは参考項目に対して削除または追加を 行う理由
環境の自然 的構成要素	地形及び地質	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事	×	対象事業実施区域は、重要な地形及び地質 等に該当する地域ではなく、工事の実施に より地形及びに影響を及ぼす要因はないこ とから、項目として選定しない。
の良好な状態の保持を旨として調	地盤	切土又は盛土、基礎工事	×	地盤沈下を引き起こすほどの量の地下水の 揚水などを行わないことから、項目として 選定しない。
査・予測・評価されるべき環境要素	土壌	切土又は盛土、基礎工事	0	対象事業実施区域は廃棄物処理施設の跡地 となっており、用地の造成や基礎工事に伴 う土砂の移動や搬出が考えられ、土壌汚染 に係る安全性を確認する必要があることか ら、項目として選定する。
	植物	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事、施設の設 置工事	0	工事の実施段階から植物への影響が考えられることから項目として選定する。なお、施工時の影響については、供用時と同じ影響 因となることから、施工時及び供用時として予測を行う。
生物の多様 性の確保及 び自然環境	動物	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事、施設の設 置工事	0	工事の実施段階から動物への影響が考えられることから項目として選定する。なお、施工時に影響が生じ、供用時も継続することから、施工時及び供用時として予測を行う。
の体を旨を 会で調・評価される できるでは、 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるでは、 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	陸水生物	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事、施設の設 置工事	0	工事の実施段階から高谷川の陸水生物への 影響が考えられることから項目として選定 する。なお、施工時に影響が生じ、供用時 も継続することから、施工時及び供用時と して予測を行う。
要素	生態系	切土又は盛土、仮設工 事、基礎工事、施設の設 置工事	0	工事の実施段階から生態系への影響が考えられることから項目として選定する。なお、施工時に影響が生じ、供用時も継続することから、施工時及び供用時として予測を行う。
	海洋生物	仮設工事、基礎工事、施 設の設置工事	×	工事に伴う排水量は比較的少ないため、海域に影響を及ぼさないと考えられることから、項目として選定しない。
人の出て、別・で、大の出て、といい、日本のといい、日本のといい、日本のといい、で、大のといい、で、大のには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これ	人と自然との 触れ合いの 活動の場	資材又は機械の運搬	×	資材又は機械の運搬等のために走行する工事関係車両は交通量の非常に多い国道357号等を走行するため、工事関係車両の影響は極めて少ないことから、項目として選定しない。
環境への負 荷の量の程 度により予	廃棄物	工作物の撤去又は廃棄、 仮設工事、基礎工事、施 設の設置工事	0	各工事により廃棄物が発生することから、 項目として選定する。
測及び評価 されるべき 環境要素	残土 1日であり 選定1	切土又は盛土、工作物の 撤去又は廃棄、仮設工 事、基礎工事	0	各工事により残土が発生することから、項 目として選定する。

表 7-1.4 (3) 環境影響評価項目の選定理由(土地又は工作物の存在及び供用)

į	環境要	秦素	活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若しく は参考項目に対して削除または追加を行う理由
		硫黄酸化物	ばい煙又は粉じんの 発生		廃棄物の焼却に伴い、硫黄酸化物が発生する ことから、項目として選定する。
		窒素酸化物	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い、窒素酸化物が発生する ことから、項目として選定する。
環境のは素が		浮遊粒子状物 質	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い、浮遊粒子状物質が発生 することから、項目として選定する。
	大	粉じん	ばい煙又は粉じんの 発生	×	廃棄物の焼却に伴う粉じんは環境基準が定められている浮遊粒子状物質に代表させて環境 影響を調査・予測・評価することから、項目 として選定しない。
	気 質	有害物質 (塩化水素)	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い、有害物質(塩化水素) が発生するおそれがあることから、項目とし て選定する。
の良好保持で 態と予測を を を を を を を を を を を を の に と う れ る で さ き き さ き き き き き き き き き き き き き き き		光化学オキシ ダント	ばい煙又は粉じんの 発生	×	光化学オキシダントは揮発性有機化合物 (VOC)と窒素酸化物等の原因物質が複雑な光化学反応によって二次的に生成される物質である。廃棄物焼却施設においては、窒素酸化物は排出されるものの VOC の発生は極めて少なく、影響は軽微であると考えられることから項目として選定しない。
		ダイオキシン 類	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い、ダイオキシン類が発生 するおそれがあることから、項目として選定 する。
		その他の物質 (水銀)	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い、水銀等が排出するおそ れがあることから、項目として選定する。
	水	生物化学的酸	施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、生物化学的酸素要求量を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
	小質	素要求量	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。

注 〇:参考項目であり、選定した項目 ×:参考項目であるが、選定しない項目

表 7-1.4 (4) 環境影響評価項目の選定理由(土地又は工作物の存在及び供用)

琈	環境要	 素	活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若しく は参考項目に対して削除または追加を行う理由
		儿公孙玉岭丰	施設の存在等	X	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、化学的酸素要求量を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
		化学的酸素 要求量	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。
		ル まりよい	施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、水素イオン濃度を変化させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
		水素イオン濃度	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。
環境の自然 的構成要素 の良好な状			施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、浮遊物質量を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
態の保持を 旨と予測・評 価される本 き環境要素	水質	11100	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。
			施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、全燐濃度を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
		全燐	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。
			施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、全窒素濃度を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
		全窒素	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。

注 〇:参考項目であり、選定した項目 ×:参考項目であるが、選定しない項目

表 7-1.4 (5) 環境影響評価項目の選定理由(土地又は工作物の存在及び供用)

環	境要	素	活動要素	選定	環境影響評価項目として選定する理由、若しく
>1	. , , , ,		1037271	結果	は参考項目に対して削除または追加を行う理由
					設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等
			施設の存在等	×	と接触することはなく、ノルマルヘキサン抽
			7 17 III 14		出物質濃度を増加させる活動要素はないこと
		ノルマル			から、項目として選定しない。
		ヘキサン			廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処
		抽出物質	LIL I.	0	理設備にて処理後、再利用または公共用水域
			排水		へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理
					後、公共用水域へ放流する。このため、項目 として選定する。
					設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等
					と接触することはなく、溶存酸素量を変化さ
			施設の存在等	×	と接触りることはなく、俗行眩系重を変化さ せる活動要素はないことから、項目として選
					定しない。
		溶存酸素量			廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処
		俗行政杀里	排水		理設備にて処理後、再利用または公共用水域
					全版幅にく是達後、行利用よたは公共用が域 へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理
					後、公共用水域へ放流する。このため、項目
					として選定する。
					設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等
環境の自然					と接触することはなく、大腸菌群数を増加さ
的構成要素		l	施設の存在等	×	せる活動要素はないことから、項目として選
の良好な状					定しない。
態の保持を	水	大腸菌群数			廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処
旨として調	質		排水		理設備にて処理後、再利用または公共用水域
査・予測・評				0	へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理
価されるべ					後、公共用水域へ放流する。このため、項目
き環境要素					として選定する。
			施設の存在等		設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等
				×	と接触することはなく、全亜鉛濃度を増加さ
			旭畝の行任寺	^	せる活動要素はないことから、項目として選
					定しない。
		全亜鉛			廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処
					理設備にて処理後、再利用または公共用水域
			排水	0	へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理
					後、公共用水域へ放流する。このため、項目
					として選定する。
					設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等
			施設の存在等	×	と接触することはなく、有害物質等(健康項
			7084 17 12 4		目)の濃度を増加させる活動要素はないこと
		有害物質等			から、項目として選定しない。
		(健康項目)			廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処
			+1114		理設備にて処理後、再利用または公共用水域
			排水		へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理
					後、公共用水域へ放流する。このため、項目
注 ○ : 参考項		소 10 기려 나 1 구	75 D		として選定する。

表 7-1.4(6) 環境影響評価項目の選定理由(土地又は工作物の存在及び供用)

į	環境要	5素	活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若しく は参考項目に対して削除または追加を行う理由
		ダイオキシン	施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、ダイオキシン類の濃度を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
	水	類 類	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。
	· 質		施設の存在等	×	設備は全て建屋に収納され、雨水は廃棄物等と接触することはなく、有害物質等(その他)の濃度を増加させる活動要素はないことから、項目として選定しない。
環境の自然 的構成要素		その他の項目	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流する。また、生活排水は浄化槽で処理後、公共用水域へ放流する。このため、項目として選定する。
的の根が の良の保持で を を を を を を で さ で される		水底の底質	排水	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴う排水は、排水処理設備にて処理後、再利用または公共用水域へ放流するが、排水中の極微量の有害物質が水底に沈殿し、蓄積される可能性があることから、項目として選定する。
き環境要素		水文環境	施設の存在等、排水	×	廃棄物焼却施設の稼働に伴い使用する水は、 上水又は工業用水を利用し、災害時を除き地 下水は使用しない。また、排水量も現状とほ とんど変わらないため、放流先である高谷川 の流況に影響を及ぼさない。 これらのことから項目として選定しない。
				0	<施設の稼働> 誘引送風機などの騒音発生機器の稼働による 影響が考えられることから項目として選定す る。
		騒音及び 超低周波音	騒音の発生	×	<廃棄物の運搬> 廃棄物運搬車両の台数やルートは現状と基本 的に変わらないことから項目として選定しな い。
			超低周波音の発生	0	誘引送風機などの超低周波音発生機器の稼働 による影響が考えられることから項目として 選定する。

表 7-1.4 (7) 環境影響評価項目の選定理由(土地又は工作物の存在及び供用)

撐	環境要素		活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若しく は参考項目に対して削除または追加を行う理由
	±=	動	振動の発生	0	<施設の稼働> 誘引送風機などの振動発生機器の稼働による 影響が考えられることから項目として選定す る。
	1/100	'到	旅動が発生	×	<廃棄物の運搬> 廃棄物運搬車両の台数やルートは現状と基本 的に変わらないことから項目として選定しな い。
環境の自然 的構成要素 の良好な状	悪	·臭	悪臭の発生	0	施設の稼働に伴い、煙突からの悪臭の排出及 び施設からの悪臭の漏洩が考えられることか ら、項目として選定する。
態 能 と と で と で で で で で で で で で で で で で	地形及	び地質	施設の存在等	×	対象事業実施区域は、重要な地形及び地質等に該当する地域ではなく、廃棄物焼却施設の存在により地形及びに影響を及ぼす要因はないことから、項目として選定しない。
き環境要素		風害	施設の存在等	×	対象事業実施区域は臨海部の埋立地にあり、 周囲は工場地帯となっており住居等は存在し ないことから、項目として選定しない。
	風害、 光害及 び日照 阻害	光害	施設の存在等	×	対象事業実施区域は臨海部の埋立地にあり、 周囲は工場地帯となっており住居等は存在し ないことから、項目として選定しない。
	<u> </u>	日照 阻害	施設の存在等	×	対象事業実施区域は臨海部の埋立地にあり、 周囲は工場地帯となっており住居等は存在し ないことから、項目として選定しない。
	植	物	施設の存在等	0	対象事業実施区域は植栽帯などの緑地が含まれ、事業により植生状況が変化することから、 項目として選定する。
生物の多様 性の確保及 び自然環境	動	物	施設の存在等	0	対象事業実施区域における植生等の変化により動物の生息状況が変化する可能性があることから、項目として選定する。
の体系的保全を旨とし	(先水	生物	施設の存在等	×	対象事業実施区域内には陸水環境がないこと から項目として選定しない。
て調査・予 測・評価され	座/八	. 1.70	排水	0	施設の排水により高谷川の陸水生物への影響 が考えられることから項目として選定する。
るべき環境要素	生魚	態系	施設の存在等	0	対象事業実施区域における植生等の変化により生態系が変化する可能性があることから、 項目として選定する。
			排水	0	施設の排水により高谷川の生態系への影響が 考えられることから項目として選定する。

表 7-1.4 (8) 環境影響評価項目の選定理由(土地又は工作物の存在及び供用)

ž	環境要	秦素	活動要素	選定結果	環境影響評価項目として選定する理由、若しく は参考項目に対して削除または追加を行う理由					
生物の多様 性の確保及 び自然環境 の体系的保	·保及 環境		施設の存在等	×	施設の存在等に関して海域環境に影響及ぼす要因はないことから、項目として選定しない。					
全を調査・されるでは、できまれるでは、できまれるでは、できまれるでは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これ		海洋生物	排水	×	施設の稼働に伴う排水は海域に直接放流しないこと、排水量は比較的少ないことから、海域に影響を及ぼさないため、項目として選定しない。					
人と自然と の豊かな触 れ合いの確 保を旨とし	豊かな触 景観合いの確		景観施設の存在等		廃棄物焼却施設の設置に伴い景観が変化する 可能性があるため、項目として選定する。					
て調査・予 測・評価され るべき環境 要素		人と自然との 触れ合いの 活動の場	施設の存在等	0	人と自然との触れ合いの活動の場と考えられる江戸川河川敷に隣接していることから、項目として選定する。					
環境への負		廃棄物	廃棄物の発生	0	廃棄物焼却施設の稼働に伴い焼却灰等の廃棄 物が発生することから、項目として選定する。					
環境の負 荷の量の程 度により予 測及び評価	温室効果ガ		室	室	室	温室	二酸化 炭素	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い温室効果ガス (二酸化炭素) が発生することから、項目として選定する。
されるべき環境要素		一酸化 二窒素	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い温室効果ガス (一酸化二 窒素) が発生することから、項目として選定 する。					
	ス 等	メタン	ばい煙又は粉じんの 発生	0	廃棄物の焼却に伴い温室効果ガス (メタン) が発生することから、項目として選定する。					

注 〇:参考項目であり、選定した項目 ×:参考項目であるが、選定しない項目